

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4091100018
法人名	株式会社 長英会
事業所名	グループホーム ふくよかの家、大平寺
所在地 (電話番号)	福岡県福岡市南区大平寺2丁目13番30号 (電話) 092 - 567 - 6600

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年1月18日	評価確定日	平成20年2月1日

【情報提供票より】(平成19年12月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 8人, 非常勤 3人, 常勤換算	9.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造一部鉄骨造り 3階建ての1階部分
------	------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	63,000円	その他の経費(月額)	(光熱水費) 12,600円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(550,000円)	有りの場合 償却の有無	有(34ヶ月)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,575円			

(4) 利用者の概要(12月 12 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.6 歳	最低	76 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高橋循環器科内科医院 / 大平寺診療所 / 長尾病院 / 秋本病院 / 寺沢病院 / いりき皮膚科など
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医院併設型の「ふくよかケアプラザ大平寺の森」は、緑地公園と緑と自然に恵まれた住宅地の中にあり、心安らぐ環境と福岡市内を一望できる大平寺地区の高台に位置する。「ふくよかケアプラザ大平寺の森」は、高齢者ケアの複合型施設で、デイサービス・診療所・介護付有料老人ホーム・グループホーム「ふくよかの家、大平寺」で構成されている。グループホームの基本理念として「あなたがいるからみんなが幸福。みんなが幸福に」を掲げ、温もりと暖かさ与人情味あふれる雰囲気の中で、入居者と職員が一緒に喜怒哀楽を共感しながら、入居者ができる力を発揮できるように支援している。同一建物内のクリニックの医師が、グループホームの嘱託医として健康管理や健康相談など医療面をサポートする体制があり、入居者や家族にとって大きな安心となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めての外部評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回、初めての評価であり、主任や職員全員で自己評価・外部評価の内容をファイルを作成し回覧している。その中で、改善に向けての取り組みを決定し実施するなど、積極的に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月に1回、自治会長・住民代表・民生委員・入居者家族・管理者・職員が参加し開催している。事業所の状況や活動・サービスの報告など、その都度の取り組みや行事について意見交換を行っている。運営推進会議の意見は、職員へ伝達したり、改善に向けて取り組むなど、サービスの質の向上を図る取り組みを行っている。今後は、更に運営推進会議の機会を活かし、地域包括支援センターの職員の参加など、行政との関係づくりの場としても活用を期待したい。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月、カラーでグループホーム通信を発行し、担当職員からのコメントや行事の写真・日々の様子・体調・生活状況の報告を行っている。家族は、気になる生活状況など、毎月分かりやすく報告があるため、大変喜ばれている。また、面会や介護計画更新の際には、家族の意見や要望を聞き取り、管理者へ報告するなど、意見や要望に対応できる仕組みがある。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>職員を通じて老人会との情報交換を行うなど、地域行事や地域活動に参加している。地域の方が気軽に参加しやすい施設のイベントや季節行事などは情報発信を行い、地域の方々の参加・協力をいただいている。地域との連携を高めるために、地域との関係づくりが工夫されている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自然と眺望に恵まれた環境の中、家庭的な温かい空間の中で一人ひとりの思いを大切にしながら皆んなが幸福。皆んなが幸福に・・・を理念に掲げている。地域密着型サービスとして、実際には地域の方々が行事に協力・参加し、地域との連携を積極的に行っているが、理念の中に地域におけるグループホームが果たす役割や地域との交流などが明示されていないため、理念の内容に関して検討が求められる。		平成18年の法改正により、グループホームは地域密着型サービスの役割を担うことが求められ、地域との関係づくりなど理念の明記することが必要とされており、理念の内容の検討が求められる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、職員全員で朝礼時に理念を唱和し、また、ミーティングの場でも理念を振り返るなど、職員自身が日々のケアの中で実践できるように取り組んでいる。毎月、家族にも、理念の理解を育むためにグループホーム通信を通じて働きかけている。職員は日々のケアの中で、理念の確認や意識づけなどを行っている。(合言葉:あなたの心も、介護の心も、温か)		
た					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員を通じて老人会との情報交換を行うなど、地域行事や地域活動に参加している。地域の方が気軽に参加しやすい施設のイベントや季節行事などは情報発信を行い、地域の方々の参加・協力をいただいている。地域との連携を高めるために、地域との関係づくりが工夫されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回、初めての評価であり、主任や職員全員で自己評価・外部評価の内容をファイルを作成し回覧している。その中で、改善に向けての取り組みを決定し実施するなど積極的に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回、自治会長・住民代表・民生委員・入居者家族・管理者や職員が参加し開催している。事業所の状況や活動・サービスの報告など、その都度の取り組みや行事について意見交換を行っている。運営推進会議の意見は、職員へ伝達したり、改善に向けて取り組むなど、サービスの質の向上を図る取り組みがある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外では、市町村担当者と行き来する機会をつくり、情報交換を行っている。今後は、地域包括支援センターとの関わりも高めていくことが望まれる。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度に関する研修会や勉強会などで学ぶ機会があり、必要が生じた際に入居者や家族にいつでも活用できるように取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、カラーでグループホーム通信を発行し、担当職員からのコメントや毎月の行事の写真・日々の様子・体調・生活状況の報告を行っている。家族は、気になる生活状況など、毎月分かりやすく報告があるため、大変喜ばれている。金銭管理や職員の異動に関しては、毎月1回、ホーム通信を送る際に報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や介護計画更新の際には、家族の意見や要望を聞き取り、主任または副主任が対応し、管理者への報告を行い、改善策を検討するなど、意向を運営に反映していく仕組みがある。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については最小限に抑え、デイサービスの利用時より顔なじみであったり、職員とのなじみの関係を経てから入居にいたるなど、入居者へのダメージを防ぎ、入所者が安心して混乱しないような配慮を行っている。		
t					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の募集・採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。職員の得意分野をそれぞれが活かせるように本人の意欲や個々の能力が発揮できるように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	倫理規定に基づく人権教育の実施や研修の取り組みがあり、内容の伝達なども行われているが、実施記録の整備が求められる。		研修の記録の整備が必要である。
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	年間のおおよその計画はあるが、新人・現任の年間計画を作成し、職員の段階に応じた研修計画が求められる。積極的に受講することで職員のサービスの質の向上や職員の新たな意識改革が期待される。		研修や報告の資料を整備することが求められる。今後は、外部研修などを通じて内部研修に繋げて欲しい。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	地域の同業者との交流する機会は現在は持っていないが、見学や交流の活動について意見交換や情報交換したいと前向きに取り組む姿勢がある。同グループ間では研修の取り組みとして、テレビモニターなどを活用しネットワークでの活動や交流がある。		組織としての他グループホームとの情報交換などを行う取り組みが求められ、グループホーム協議会などへの加入など、多様な機会をとらえ検討することが求められる。
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の際には、併設のショートステイやデイサービスを体験利用していただいたり、日に一度はグループホームで過ごしていただくなど、事前に安心して入居できるように、なじみの関係を大切にしながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に介護する側という意識ではなく、入居者と共に楽しむよう支援を行い、生活暦を重視して、本人の得意分野や興味など日々の暮らしの中で活かせるように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>初回のアセスメントより、入居者の生活暦など把握した上で意向をふまえながら、日常の会話や状態からできる事を見出し、入居者の日々の暮らしに活かせるように支援しているが、言葉によって伝えられない本人の思いや意向・ニーズを更に引き出す取り組みが求められる。</p>		<p>入居者本人も家族も自分の思いを言ってもらえるようになるまでには時間が必要で、日々のケアの中で、見えない思いや意向・ニーズを引き出すために、職員が些細なことでも聞き逃さず、本人の発する言葉を積み重ね、意向の把握に努める必要がある。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>各担当職員が支援マップにそって、本人や家族からの情報・意向を十分に把握・検討し、サービス計画の目標に対する評価を行っている。介護計画は、家族の意向や意見を確認し作成されている。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人・家族・必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>現状の計画に対し、3ヶ月ごとの評価・更新を行っている。入退院に伴う状況変化や状態変化があった場合には、現状に即した介護計画の見直しや新たな計画の取り組みがある。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>高齢者ケアの複合型施設として、スケールメリットを活かした共同のイベントやレクリエーションなど多彩な計画が毎月開催され、入居者や家族がふれあい・交流を楽しみに参加している。また、デイサービスの送迎車の利用により、外出を楽しんでいただけるように支援している。</p>		
や					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>同一建物内のクリニックの医師が主治医であり、かかりつけ医でもある。常に連携を取り、適切な医療の支援を受けることができる体制があり、入居者や家族に大きな信頼と安心を与えている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	本人や家族の思いを重視し、かかりつけ医との連携を取り、指示を受けて、身体状況に即した医療が受けられている。マニュアルなどの整備や他の機関を交えての話し合いを行い、方針を共有する体制・仕組みがある。(ターミナルマニュアルとして:説明書・依頼書・確認書・健康管理書・ターミナルアンケートなどの書類が整備されている)		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	個人情報の取り扱いの法令を遵守し、会話・接遇などの研修を行い、普段の言葉づかいや対応には、職員間で注意し合うなど配慮している。情報の取り扱いについて、入所者及び家族へ確認を交わすことで漏洩防止に努めている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	本人の趣味・希望や生活リズムにそった過ごし方ができるように、気分・体調に合わせて、その日の意向を尊重した配慮を行っている。その人に合った個別的な柔軟な対応を行い、自分のペースで過ごしていただけるように支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	栄養士や調理師により専門的に栄養面や食材の工夫がなされ、各自がなじみの食器を使用し、一人ひとりの嗜好や身体の状態に合わせたメニューが取り入れられ、職員も同じテーブルで食事をしている。食事の盛りつけや後片づけなど職員が見守りながら入居者ができることを行っていたいしている。鍋料理やお菓子作りなども取り入れ、“食”を楽しむ工夫を行っている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴日は「火・木・土」と曜日を決めているが、無理強いせずに時間や声かけのタイミングを検討し、本人の意思を尊重しながら、本人のペースで個別に配慮しながら入浴を支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	日常的には副食のつぎ分け・拭き掃除・箸ならべ・洗濯物たたみなど、入居者一人ひとりの希望に合わせて役割を担っていただいている。貸し出し図書の設定や絵画・音楽会などの参加を支援し、暮らしの中で得意分野を活かした達成感や喜びを感じていただけるように取り組んでいる。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	その日の天候で、敷地内の中庭や周辺を散歩したり、近隣へドライブを随時実施している。月間計画として、外出レクリエーションで出かけたり、個別に外出ができるように支援している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	入居者の自由な暮らしを支え、施錠しなくても安心して生活できるように支援している。日中は鍵をかけない取り組みがなされている。やむを得ず鍵をかける場合は、その理由を家族に説明し同意を得る仕組みがある。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	スプリンクラーを設置している。避難経路を明確にしたマニュアルにもとづき、緊急時には、すぐに関連施設との協力体制が取れるようになっている。非常災害マニュアルにより、誘導の工夫や災害の取り組みの準備・連携ができています。今後は住宅地の立地を考慮し、避難訓練に地域の協力を依頼するなど連携が求められる。		避難訓練は、地域との連携・協力が求められ、今後は、運営推進会議などを通じて、地域への働きかけが必要である。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	入居者一人ひとりの毎日の食事・水分・摂取量を記録している。食事は季節感を取り入れ、目で楽しんでいただき、栄養バランスの取れたものとなっており、個別に一人ひとりの食事量や嗜好をもとに栄養管理が行われている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共有空間は和室やソファーに、いつでも思い思いにくつろげる空間の工夫がある。手作りのカレンダーや入居者の写真が各所に掲示され、家庭的な環境づくりを行っている。窓は大きく、自然光も十分に採られ、窓の外の風景が一望でき、バルコニーにも気軽に出る事ができ季節感が感じることができるようになっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	各居室の横には、トイレが設置してあり、プライバシーに配慮した造りとなっている。本人・家族の意見を取り入れ、なじみの物や使い慣れた物を持ち込んでいただき、居心地の良い環境となっている。洗面台と大きな鏡が設置され、ゆとりある空間の中で、ゆったりと過ごすことができるように配慮されている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			